

# 平成 30 年度第 1 回愛媛県地域交通活性化推進会議

## 議事要旨

日時：平成 30 年 11 月 7 日（水）13：30～15：00

場所：愛媛県議会議事堂 4 階農林水産・建設委員会室

### 1 開会

### 2 議事要旨

#### (1) 県内の地域公共交通をめぐる動きについて

事務局より、今年度作成した生活交通確保維持改善計画等の概要について説明

#### (質疑応答)

##### ○鵜籠委員

国庫補助航路の関係で 11 航路が国庫補助航路とのことであるが、国庫補助航路の条件は  
どのようなものがあるのか。

##### ○事務局

当該航路以外に移動手段がないという唯一航路であることなどが条件となっている。

#### (2) 大規模災害時の対応について

事務局より、平成 30 年 7 月豪雨災害に係る県内の公共交通機関の被災状況及び、県との  
災害協定に基づく対応状況について説明

#### (質疑応答)

##### ○柏谷会長

交通事業者は利用者の“どこかに行きたい”という要望に応えることが重要である。今  
回の災害では、J R で高松や岡山に行けなくなった。こういった表面には現れない損害も  
大きかったと思う。

J R 四国におかれては、県内での被災状況のみならず、会社としての使命といったこと  
も含めて復旧への取組状況等を教えていただきたい。

##### ○窪委員

今回の災害における直接的な被害としては、愛媛県内における被害が大きかったが、香  
川県内で橋梁の橋脚が傾き、予讃線が不通となったことで利用者に大きな影響が発生し、  
現在も一部区間で徐行運転を行っている。

直接的な被害で最も大きかったのは、下宇和～宇和島間であり、自分も現場を初めて見  
たときは、本当に復旧できるのかという印象を持った。

今回の災害による被害額としては、復旧に要する費用が約 20 億円、営業損失が約 10 億

円となっている。営業損失の方は今後自社において営業努力等により埋めていかなければならないと考えているが、復旧費用については、国の補助等もいただきながら進めていきたい。

なお、現在は仮復旧ということで、現在、雨量や風速に対して厳しい制限がかかっている。今後、本復旧に向けて引き続き取り組んでいきたい。

#### ○柏谷会長

香川県内の徐行運転により、現在も運行の遅れは発生しているのか。

#### ○窪委員

約3分程度の遅れが生じている。

#### ○柏谷会長

バス協会は県との協定に基づく人員の緊急輸送に協力いただいたが、今回の対応を踏まえての今後の課題などがあればお話しいただきたい。

#### ○稲荷委員

今回、県との協定に基づき、被災者等の輸送支援を行ったが、バスは重要な二次交通手段であるとして再認識される機会にもなったと考えている。また、初動の対応では、県が各市町の要望等を取りまとめるハブ的な役割を果たしていただいたため、配車計画が立てやすかった。現地では道路の被災状況が酷かったため、被災地域のバス事業者にも協力してもらい道路状況確認をするなどし、安全運行に努めた。

今回の支援に関する課題としては、運転手の確保があげられる。夏場の需要が少ない時期ではあったが、高校野球応援輸送やJRの代替バス輸送等の需要もあり、バス会社では運転手のやりくりにも苦労したようだ。車両は手配できても運転手の手配ができなかったケースもあった。運転手の確保については、働き方改革や来年度からの有給休暇付与の義務化等の影響で、今後はより状況が厳しくなることが予想される。県におかれては、引き続き運転手の確保対策に取り組んでいただきたい。

#### ○柏谷会長

被災地へのボランティアの募集や派遣調整は、社会福祉協議会が担ったが、今回の災害ボランティアの輸送について、ご意見や今後の課題などがあればお話しいただきたい。

#### ○杉野委員

松山から被災地へのボランティア輸送は、県の企画で実現した。運営には社会福祉協議会も関わり、特に松山市社会福祉協議会にも支援等をいただきながら、ボランティアの登録や送り出し等を行った。松山～宇和島のボランティア輸送では、バスの乗車時間が1時間～1.5時間程度あり、乗車中に車内で県や社協職員等が現地の活動内容等について説明したことで、現地に到着後すぐにボランティア活動を行うことができた。

また、ボランティアバスの運行は、ボランティア活動の底上げにもつながったと考えている。すなわち、ボランティア自らが運転し現地に行き、活動して帰るというのは、中々

ハードルが高い。ボランティアバスによる輸送手段があったことで、行き帰りを気にせず活動できる点でハードルが下がり、県民のボランティア意識の醸成につながった。

大洲市においても、被害が広範囲に及ぶ中、各被災地区へのボランティア輸送にバスが活用されており、県との協定が活きたと考えている。

#### ○横手委員

大洲の実家には 80 歳を過ぎた両親が暮らしている。実家も全壊したが、バスでやってきてくれたボランティアの方に片付け等を手伝ってもらい、両親は大変助かったと言っていた。今回の支援は被災者の方も喜んでいたと思う。

#### ○柏谷会長

県におかれては、本日、委員から頂いた意見を参考に、今後の大規模災害時における行政と公共交通事業者の円滑な連携が図られるような取組みを推進されたい。

### (3) 地域における鉄道ネットワークのあり方について

事務局より、「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」における議論の状況や、JR予土線における利用促進の取組み等について説明

#### (質疑応答)

#### ○柏谷会長

四国の鉄道は大変厳しい状況にある。県内においても、日常的に鉄道を利用している人の数は、少ないと思われる。路線を維持するためには、もっと鉄道を利用してもらうよう利用促進に関する取組みも行わなければならない。

#### ○二宮委員

以前 30 人程度で伊予灘ものがたり号を利用しようとしたところ、団体扱いはできないと言われた。伊予灘ものがたり号を利用するには、団体での利用はできないのか。

#### ○窪委員

団体での利用も可能である。

#### ○横手委員

私は参加者を募集し、みんなで路線バスに乗車し、景勝地等に行くという企画を行っているが、参加者からはJRが企画するウォーキングイベントにも参加しているという話も聞いた。駅から 3km~7km程度を歩くことを楽しんでいるようである。そういった企画を行っているという事をもっと知ってもらい、鉄道の利用促進を行うべきと思う。

また、伊予灘ものがたり号については、人気でチケットがなかなかとれない。周りには、伊予灘ものがたり号に乗車した際、大洲城で旗を振っている姿を見て、今度は自分も旗を振る側に回ってみたいという人もいる。そのような取組みについても参加者を募集されてはどうか。

○柏谷会長

委員の皆様からの意見を参考に、鉄道網の利用促進による維持・活性化に取り組まれたい。

(4) 松山空港アクセス向上の検討結果について

事務局より、今年3月に松山空港アクセス向上検討会で取りまとめた松山空港アクセスに関する検討結果、今後の取組み、将来の環境変化を想定した各条件への対応方針(案)について説明

(質疑応答)

○柏谷会長

空港アクセスについては、松山空港アクセス向上検討会において3年間かけて検討を行った。今後の検討はこの会議で預かることとなっているが、事務局の説明に対して何か意見、質問等はあるか。

(質疑等なし)

○柏谷会長

それでは、県において今後、状況の確認や当会議への報告をお願いします。

(5) その他

○柏谷会長

委員から他に何かご発言等はないか。

(発言等なし)

3 閉会

○欠席：

松山大学法学部准教授 甲斐委員

(一社)愛媛県ハイヤー・タクシー協会専務理事 田所委員

全日本海員組合愛媛支部支部長 佐藤委員

公募委員 近藤委員

愛媛県町村会長(愛南町長) 清水委員

代理出席：

愛媛県旅客船協会会長 清水委員代理 井口 太志 事務局長

㈱まちづくり松山 代表取締役 日野委員代理 松本 真一 執行役員

愛媛県市長会長(八幡浜市長) 大城委員代理 若宮 高治 事務局長

今治市長 菅委員代理 越智 透 企画財政部長